

I. 調査要領

1. 調査時点及び調査対象期間

(1)調査時点 平成19年10月1日

(2)調査対象期間 平成19年7月～9月期の実績および平成19年10月～12月期の見通しについて調査した。

2. 調査対象

当所会員企業を対象に、商業+食品業部会、水産業部会、機械工業部会、建設業部会、観光・サービス業+諸業部会より各30社、計150社を抽出し郵送により調査した。

3. 回収状況

| | 対象企業数 | 回答企業数 | 回答率 |
|---------------|-------|-------|-------|
| 商業+食品業部会 | 30社 | 22社 | 73.3% |
| 水産業部会 | 30社 | 23社 | 76.7% |
| 機械工業部会 | 30社 | 17社 | 56.7% |
| 建設業部会 | 30社 | 21社 | 70.0% |
| 観光・サービス業+諸業部会 | 30社 | 18社 | 60.0% |
| 合計 | 150社 | 101件 | 67.3% |

注) 本調査結果の中で、「D・I」値とある記号は、ディフュージョン・インデックス（景気動向指数）の略で、各調査項目についての増加（好転・上昇）企業割合から減少（悪化・低下）企業割合を差し引いた値（景気動向指数）を示す。

Ⅱ. 概 況

－業況は前期より好転、次期も若干改善見込み－

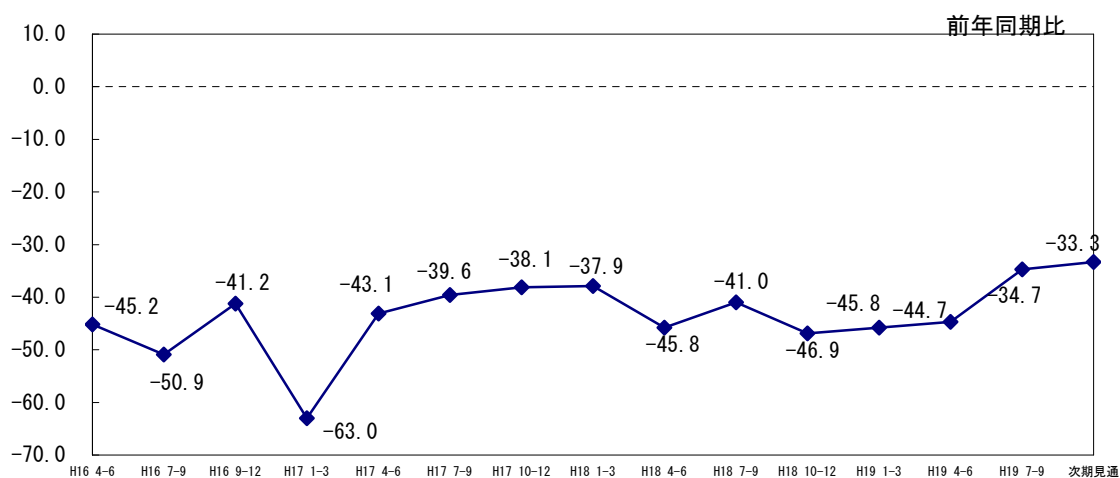
1. 全体の動き(業況)

四半期毎に実施している中小企業景況調査の**今期(平成19年7月～9月)の全業種平均DI値**(「好転」と答えた企業と「悪化」と答えた企業の割合の差)は、**前年同期比△34.7**と前回調査時の△44.7より**10.0ポイントマイナスを改善**しました。低いながらも回復基調を推移し、今期業況は改善したという結果となっております。しかしながら、各業種の各業況値を鑑みますと、ほとんどの数値がマイナスであることに変わりなく、市内経済を取り巻く経営環境は依然厳しい状況が続いていると見受けられます。

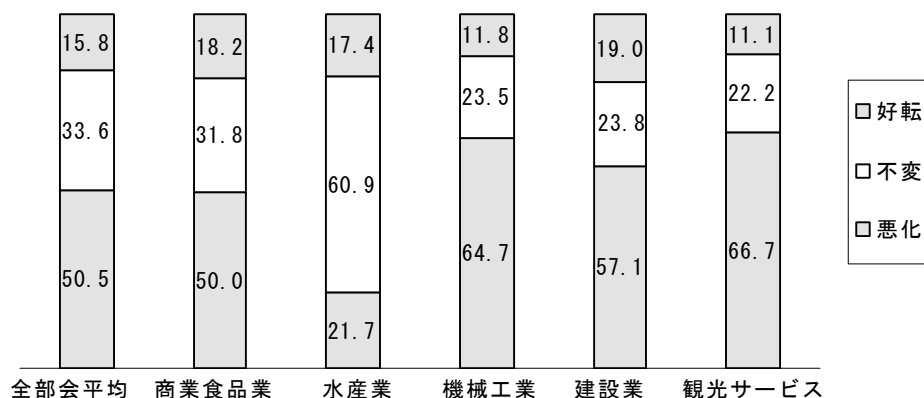
部会別で前年同期比ベースをみると、商業食品業[前期△55.6→今期△31.8]、水産業[前期△47.4→今期△4.3]、機械工業[前期△52.9→今期△52.9]、建設業[前期+5.6→今期△38.1]、観光サービス諸業[前期△68.2→今期△55.6]となりました。商業食品業は夏が暑かったこともあり、若干業況は改善しております。また前回調査時において次期見通しをプラス回復に見込んでいた水産業が今期マイナスとなっているほか、観光サービス諸業および機械工業においては、今期も依然として厳しい数字が続いている状況です。なかでも建設業については、公共事業・民間需要の減少などからプラス値からマイナス値へと業況値が悪化してきており経済の厳しい状況からは、なかなか抜け出せないように思われます。

来期(平成19年10月～12月)については、今期と比べて**業況判断DIが1.4ポイント改善**するとの見通しが寄せられ、特に今期停滞が見られた機械工業においては、これから繁忙期を迎える年末にむけて業況回復の期待が持たれ、大幅にマイナス幅が縮小する見通しとなっております。

業況推移(全業種平均D・I)



今期の業況（前年同期比）



経営上の問題点としては、引き続き**石油製品の高騰による経費負担増**を訴える声が多く寄せられています。これから石油製品の需要が増える冬期を迎えることから、経営に与える負担が懸念されます。また、人口の減少を不安視する回答がこのところ増えてきており、それにとまなう売上の減少を心配している傾向が回答の中に視えます。

このような中、基幹産業の強化のため積極的な取り組みを求めるとともに「**商・工・農・漁の連携**」と、「**政・官・民一体となった取り組み**」を推進し現状を打破して欲しい、との声も引き続き寄せられており、設備投資については前期同様、依然慎重な動きが続いています。

■部会別の動向

【**商業・食品業部会**】〔業況判断DI値（前年同期比） $\Delta 31.8$ （前期 $\Delta 55.6$ 、来期見通し $\Delta 33.3$ ）〕

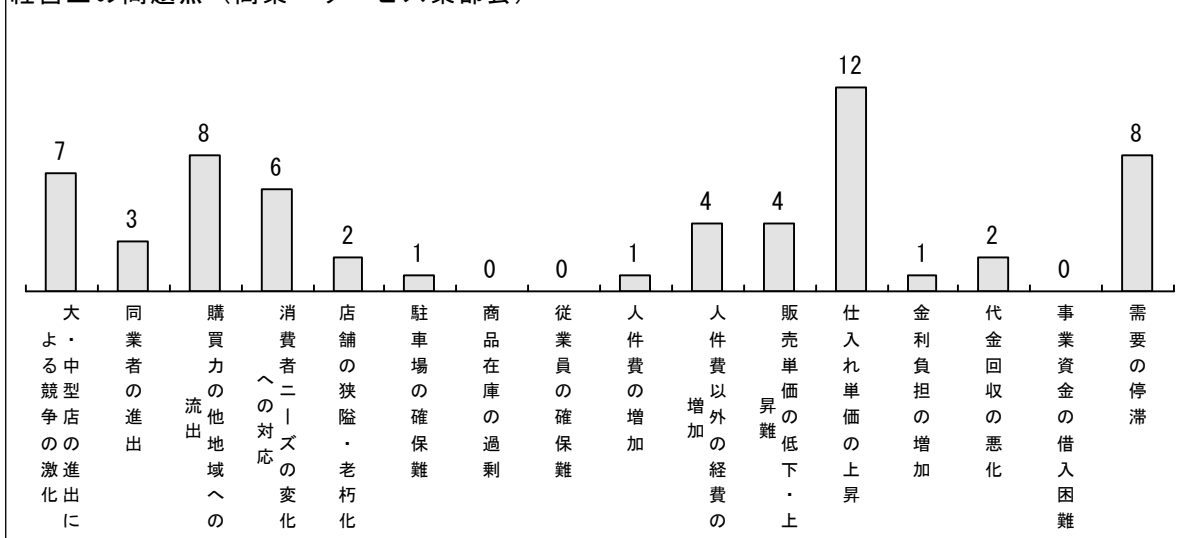
業況DI値（前年同期比）は、依然としてマイナス値が続く厳しい状況で推移しておりますが、前期よりも幾分業況値が改善しています。今年の夏（7～9月）は、気温が高かったこともあり消費の回復が若干あったので業況が改善できたのではないかと推測されます。次期の見通しについては、今期数値と横ばいで推移する見方となっております。

経営上の問題点としては「大・中型店との競争の激化（7月メガネのプリンス・9月ダイソーオープンによる影響）」「購買力の他地域への流出」を訴える声が多い。

《業界の問題点等》

- ・ インターネット通販による購買の流出（小売）
- ・ 人口減少に伴う売上の減少（小売）

経営上の問題点（商業・サービス業部会）



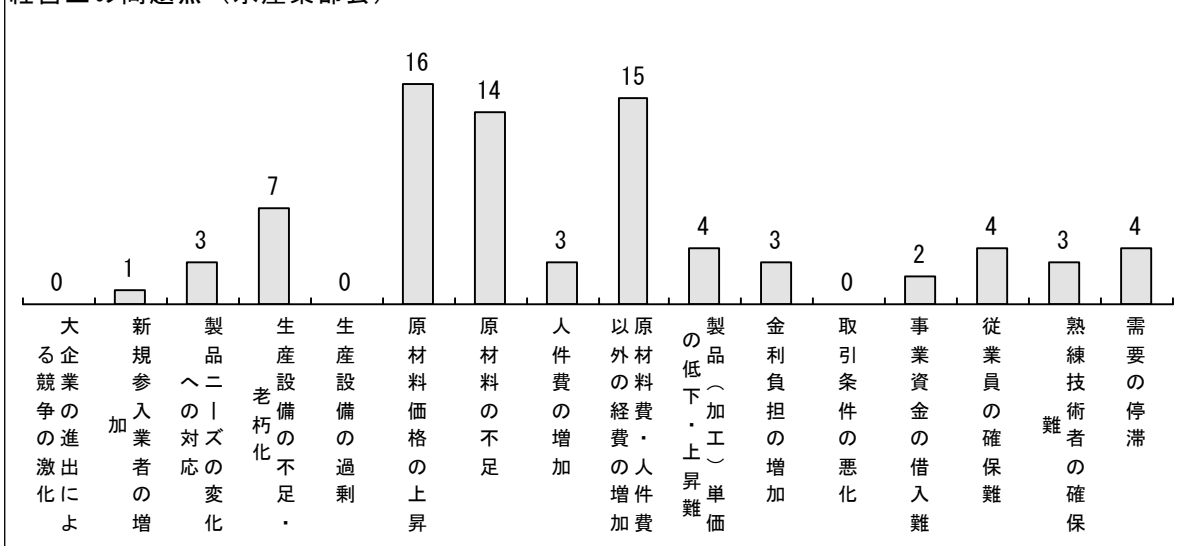
【水産業部会】 [業況判断DI値(前年同期比)△4.3(前期△47.4、来期見通し△26.1)]

業況判断DI値(前年同期比)は前期の△47.4から43.1ポイント大幅改善していますが、前回調査7～9月期の見通しでプラス回復を期待した本格的な水揚げに伴うものと判断されます。これから冬を前にして最盛期をむかえる今後の回復がさらに期待されますが、来期の見通しについては、10月に入ってから漁獲不振(ほっけ、イカの不漁等)の見方も強く、慎重な見通しとなっております。経営上の問題点としては、網など関連石油製品の値上げ、船の重油燃料・加工場ボイラーの重油燃料の値上がりが大きく響き、ホタテ・鮭など原魚不足による原材料価格の上昇も経営が苦しくなっている原因となっております。

《業界の問題点等》

- ・ 端境期に対応できる仕事の確保、それに対応できる二・三次加工商品の発掘(水産加工)
- ・ ロシアからカニの輸入がいつ止まるか分からない不安が常にある。(水産加工)
- ・ 現場、事務、営業全てにおいて優秀な人材を確保する事が難しい。(水産加工)

経営上の問題点(水産業部会)



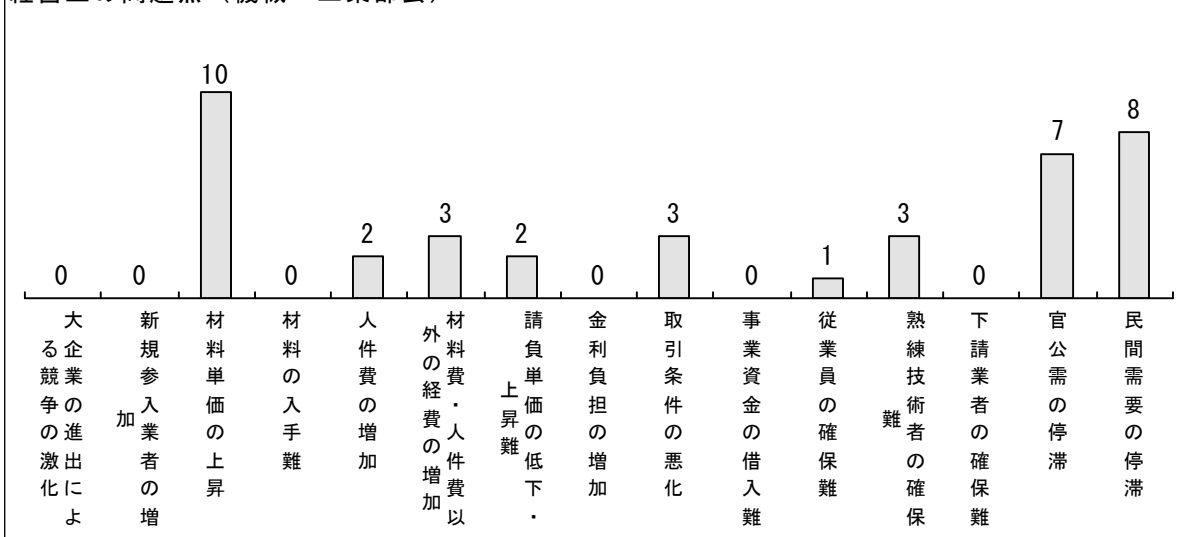
【機械・工業部会】 [業況判断DI値(前年同期比)△52.9(前期△52.9、来期見通し△18.8)]

業況判断DI値(前年同期比)は、前期比同様厳しい状況が続いております。昨年同期には業況値の改善傾向にあった業種だったが、今期は受注・需要の減少、材料単価(金属・燃料価格)の上昇の影響がありさらに厳しくなっている。経営上の問題点として、燃料費・材料費の高騰を訴える声が多く寄せられている。

《業界の問題点等》

- ・ 業界の仕事の全体量が減少している。(機械修理)
- ・ 市場がしぼんでいる(機械修理)

経営上の問題点(機械・工業部会)

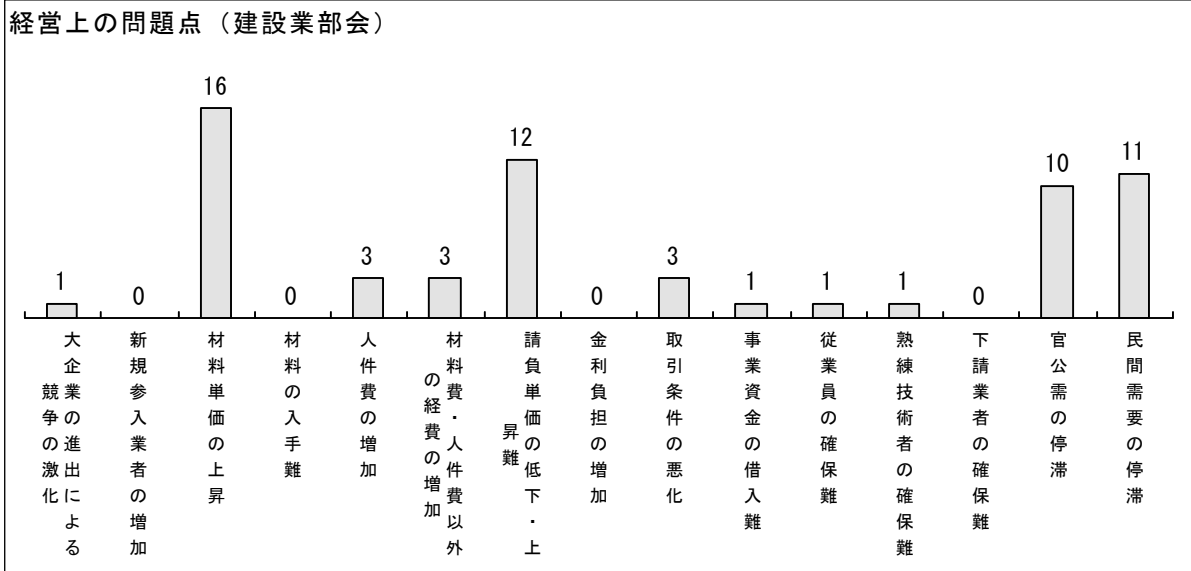


【建設業部会】 [業況判断DI値(前年同期比)△38.1(前期+5.6、来期見通し△28.6)]

業況判断DI値(前年同期比)は前期の+5.6の改善から一転非常に厳しい状況になっています。来期は本格的な繁忙期を迎え改善を期待しておりましたが大幅な改善見通しはたっていない状況です。経営上の問題点としては、鉄骨や鉄筋、電線など金属単価の上昇にともなう「材料単価の上昇」、「官公需・民間からの需要減」、「請負単価の低下」など経営収支を圧迫させる内容となっております。

《業界の問題点等》

- ・新築物件が少ない(土木) ・人口減少(土木)
- ・観光地でもあるが、地元住民が楽しめるところがあるといい。そうすれば近い地域の人もうワサを聞いて遊びに来たりするのでは…色々作ろうよ。(土木)
- ・工事単価の上昇難(土木建築) ・原油高による材料高値で利幅が少ない(電気工事)



【観光・サービス部会】 [業況判断DI値(前年同期比)△55.6(前期△68.2、来期見通し△61.1)]

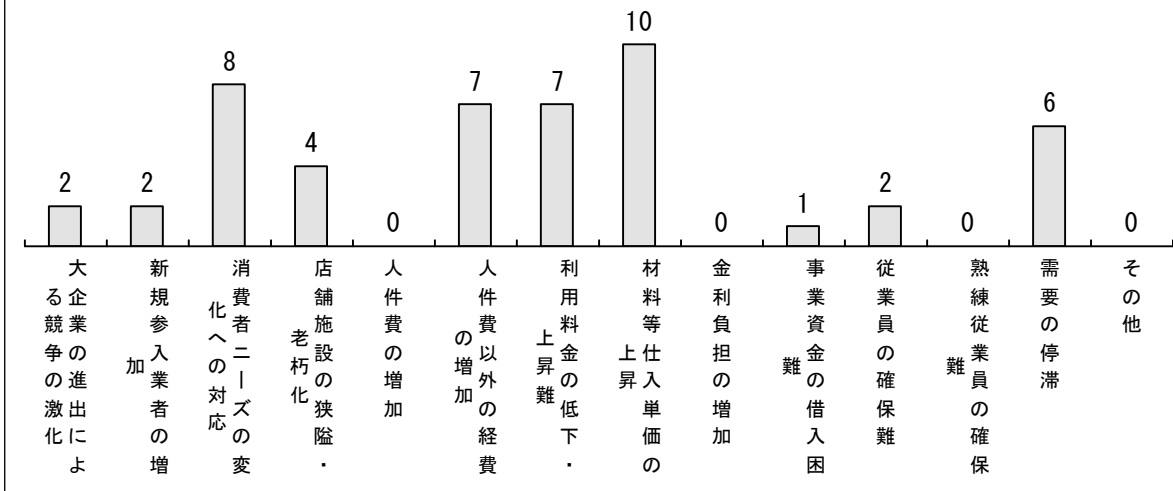
業況判断DI値(前年同期比)は前期より12.6ポイント小幅ながら改善しました。来期は依然マイナスとなり大きな改善は見通せませんが、年末年始の繁忙期に向けて若干でも数値が改善されることを期待しています。

経営上の問題点としては需要が停滞する中、「材料等仕入単価の上昇(石油製品・燃料の高騰によるもの)」という声が多く寄せられているほか、「消費者ニーズの変化への対応」、「利用料金の低下・上昇難」という声も寄せられています。

《業界の問題点等》

- ・ホワイトカラーに見られる様な横の繋がりが少しずつ出来てきているのが良い事と思います。(飲食店)
- ・人口の減少、石油製品の値上がり、高齢化(クリーニング)
- ・燃料の高騰が一番の悩み(運送)

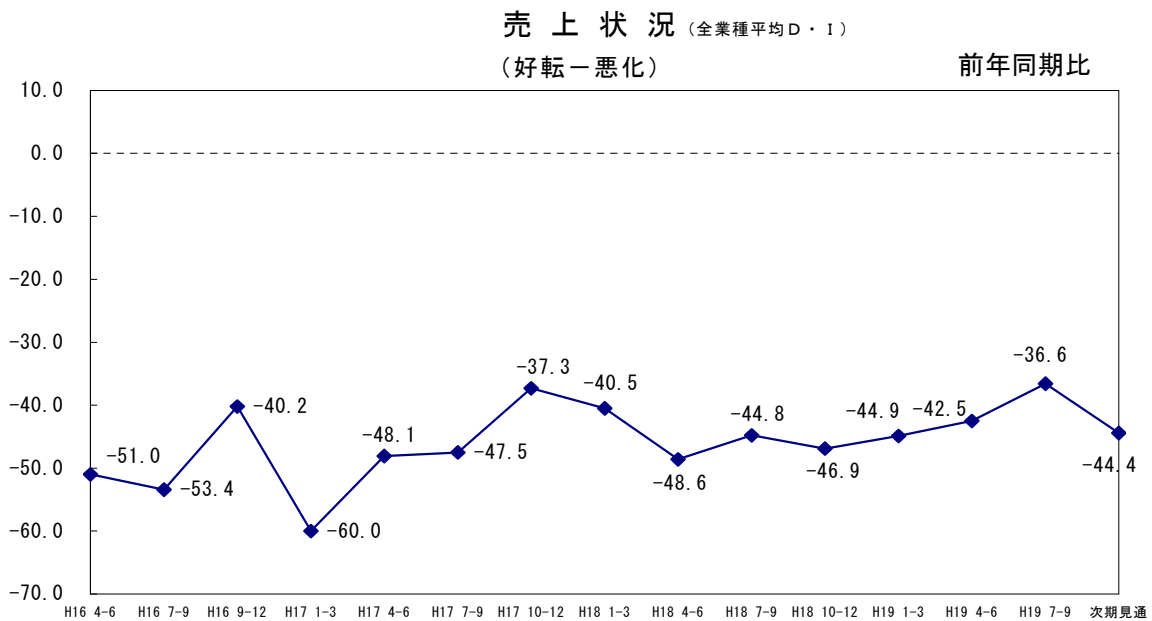
経営上の問題点（観光・サービス業部会）



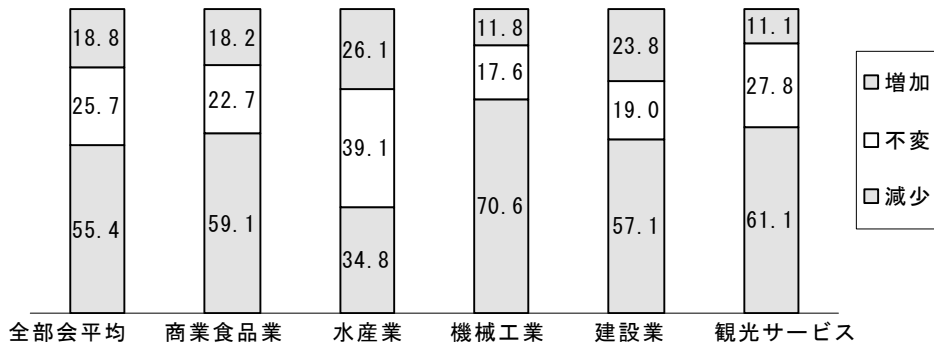
2. 今期の動向

(1) 今期の売上高・生産高

【前年同期比】（平成18年7月～9月期の水準と比較した今期の売上高）



今期の売上高・生産高（前年同期比）

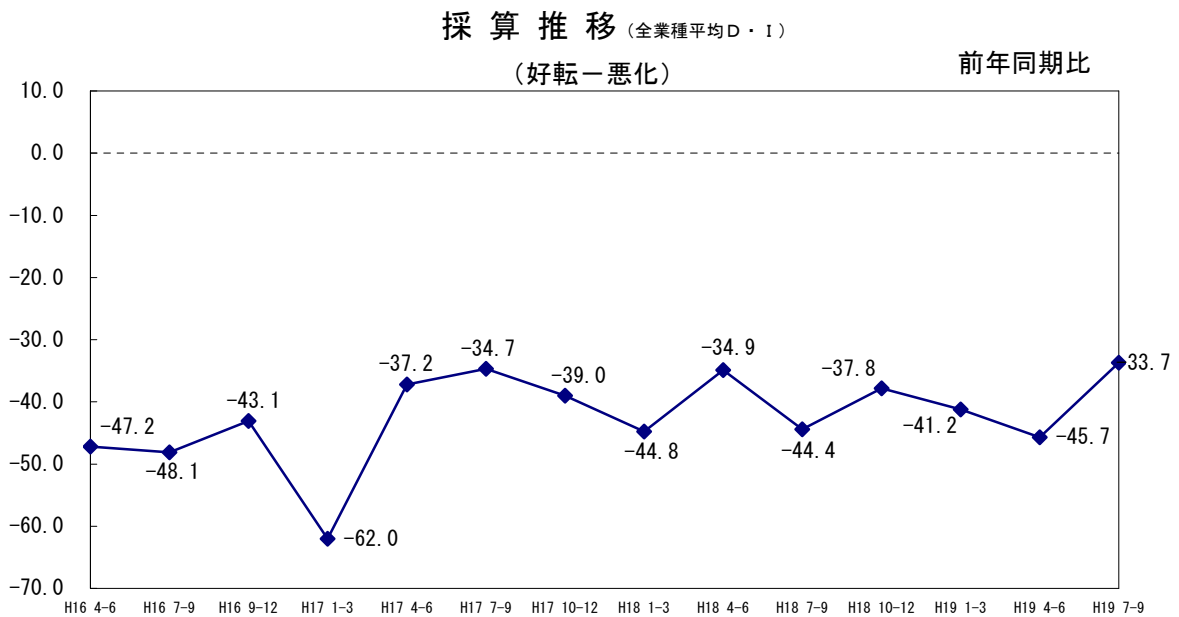


全業種平均でDI値△36.6〔前回調査時（平成19年4～6月期△42.5）より5.9ポイント改善。〕

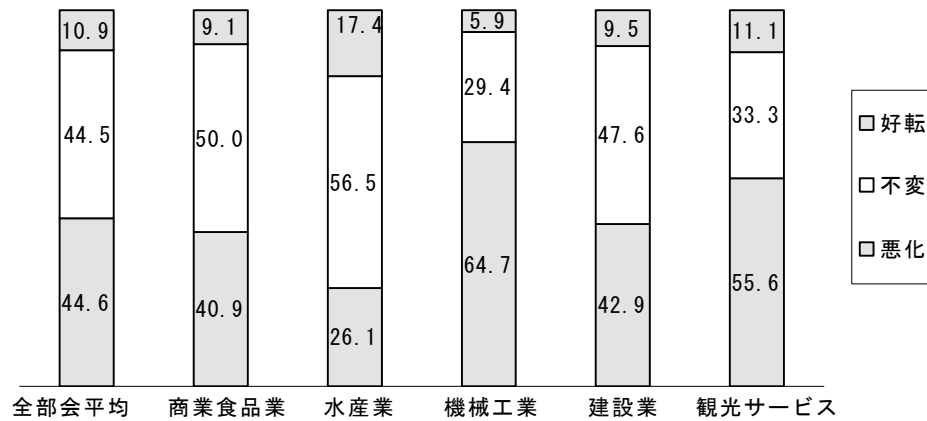
〔部会別DI値〕 商業・食品業〔前回△41.1→△40.9〕、水産業〔前回△36.8→△8.7〕
 機械工業〔前回△47.1→△58.8〕、建設業〔前回+11.1→△33.3〕
 観光・サービス業〔前回△72.7→△50.0〕

(2) 今期の採算

【前年同期比】（平成18年7月～9月期の水準と比較した今期の採算水準）



今期の採算（前年同期比）

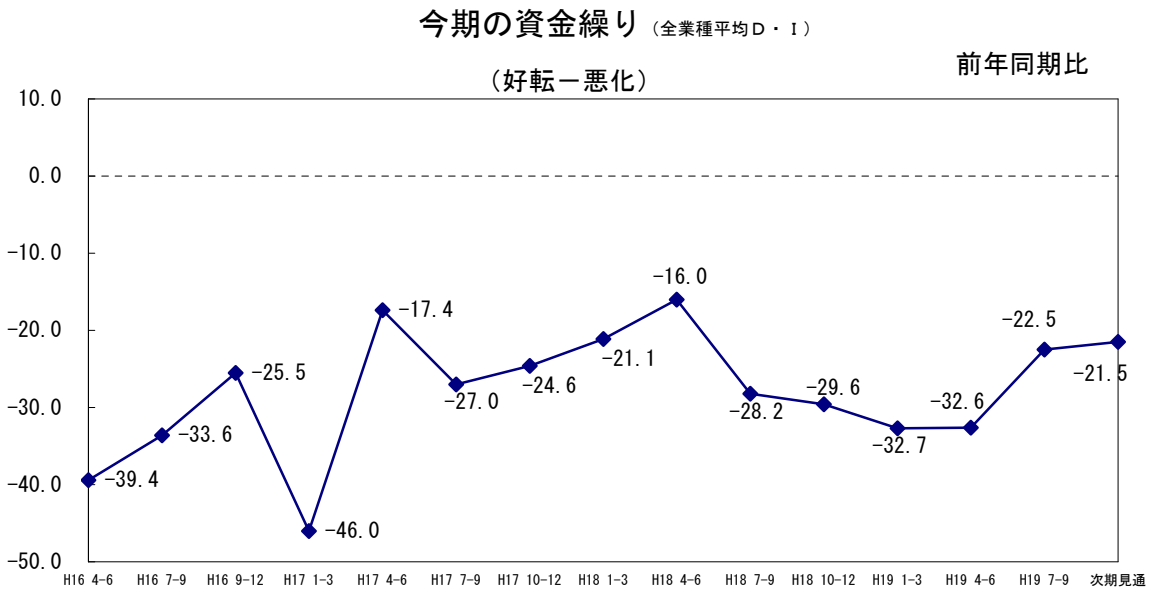


全業種平均でDI値 $\Delta 33.7$ 〔前回調査時（平成19年4～6月期 $\Delta 45.7$ ）より12.0ポイント改善〕

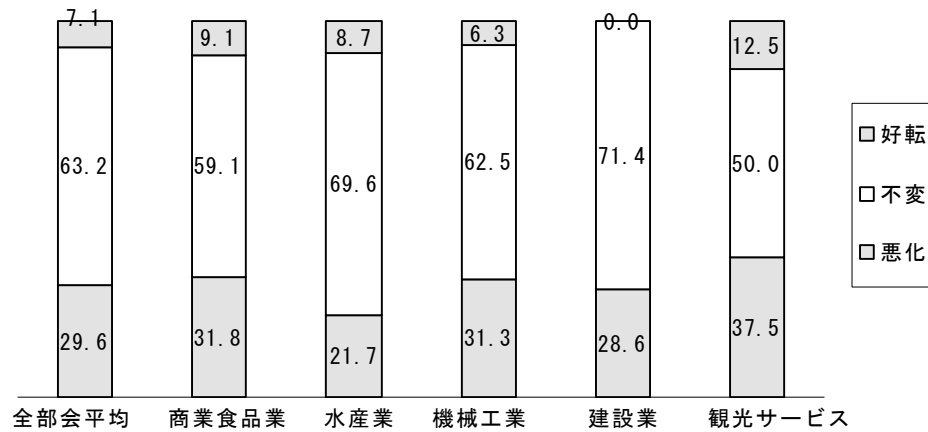
〔部会別DI値〕 商業・食品業〔前回 $\Delta 38.9 \rightarrow \Delta 31.8$ 〕、水産業〔前回 $\Delta 42.1 \rightarrow \Delta 8.7$ 〕
 機械工業〔前回 $\Delta 41.2 \rightarrow \Delta 58.8$ 〕、建設業〔前回 $\Delta 33.3 \rightarrow \Delta 33.3$ 〕
 観光・サービス業〔前回 $\Delta 68.2 \rightarrow \Delta 44.4$ 〕

(3) 今期の資金繰り

【前年同期比】（平成18年7月～9月期の水準と比較した今期の資金繰り）



今期の資金繰り（前年同期比）



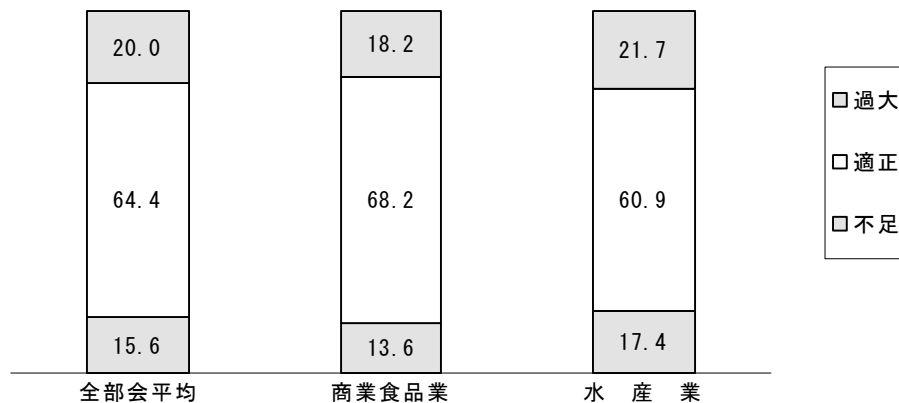
全業種平均でDI値 $\Delta 22.5$ 〔前回調査時（平成19年4～6月期 $\Delta 32.6$ ）より10.1ポイント改善〕

〔部会別DI値〕 商業・食品業〔前回 $\Delta 27.8 \rightarrow \Delta 22.7$ 〕、水産業〔前回 $\Delta 26.3 \rightarrow \Delta 13.0$ 〕
 機械工業〔前回 $\Delta 47.1 \rightarrow \Delta 25.0$ 〕、建設業〔前回 $\Delta 11.1 \rightarrow \Delta 28.6$ 〕
 観光・サービス業〔前回 $\Delta 50.0 \rightarrow \Delta 25.0$ 〕

(4) 今期の在庫水準

〔前年同期比〕（平成18年7月～9月期の水準と比較した今期の在庫水準）

今期の在庫水準（前年同期比）



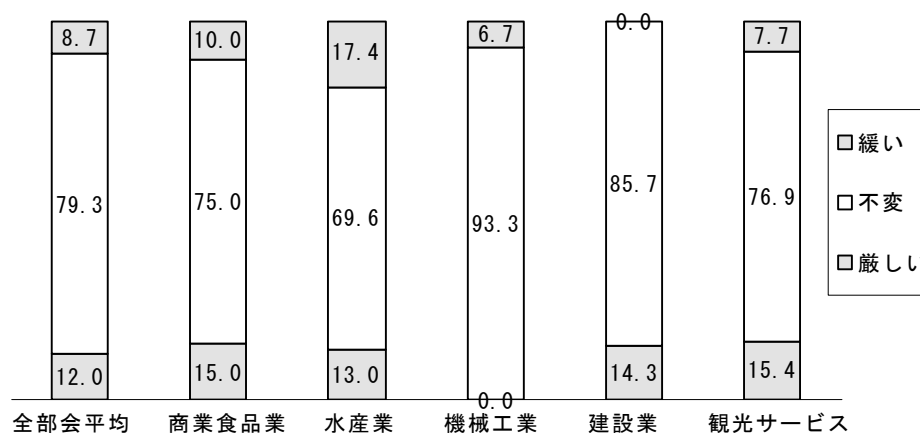
全業種平均でDI値 $+4.4$ 〔前回調査時（平成19年4～6月期 $+2.7$ ）より1.7ポイント在庫増加〕

〔部会別DI値〕 商業・食品業〔前回 $0.0 \rightarrow +4.5$ 〕、水産業〔前回 $\Delta 5.6 \rightarrow +4.3$ 〕

(5) 今期の金融機関の貸出姿勢

【前年同期比】（平成18年7月～9月期の水準と比較した今期の金融機関の貸出対応）

今期の金融機関の貸出姿勢

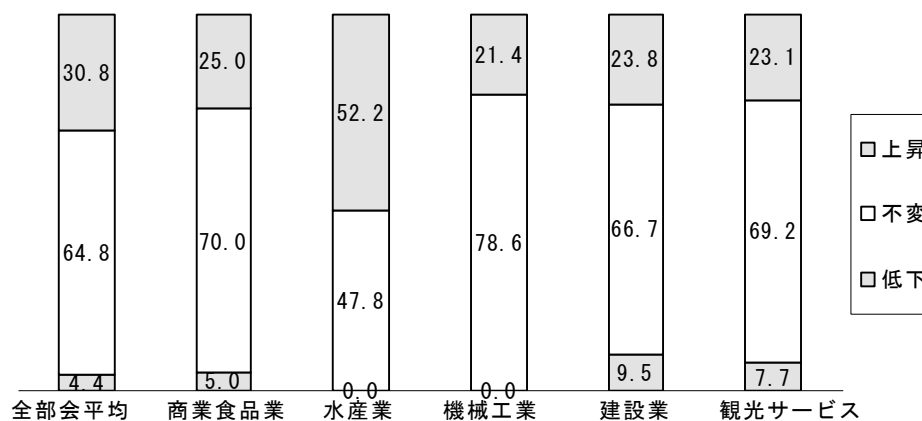


全業種平均で $\Delta 3.3$ ポイント。商業食品業 $\Delta 5.0$ 水産業 $+4.3$ 機械工業 $+6.7$ 建設業 $\Delta 14.3$ 観光サービス業 $\Delta 7.7$ 。

(6) 今期の借入金の金利水準

【前年同期比】（平成18年7月～9月期の水準と比較した今期の借入金の金利水準）

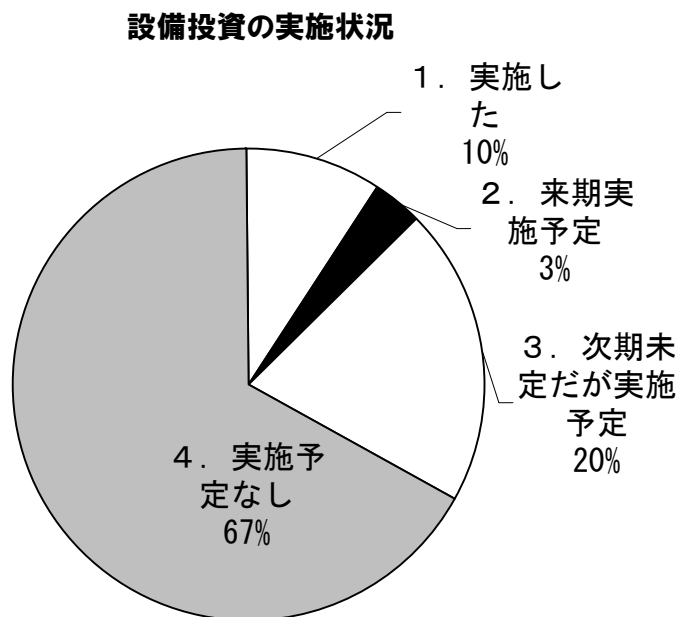
今期の借入金の金利水準



全業種平均で $+26.4$ 。商業食品業 $+20.0$ 水産業 $+52.2$ 機械工業 $+21.4$ 建設業 $+14.3$ 観光サービス $+15.4$ 。（金利水準が上昇しているとの回答比率が多くプラスの数字となっています）

(7) 設備投資の実施状況

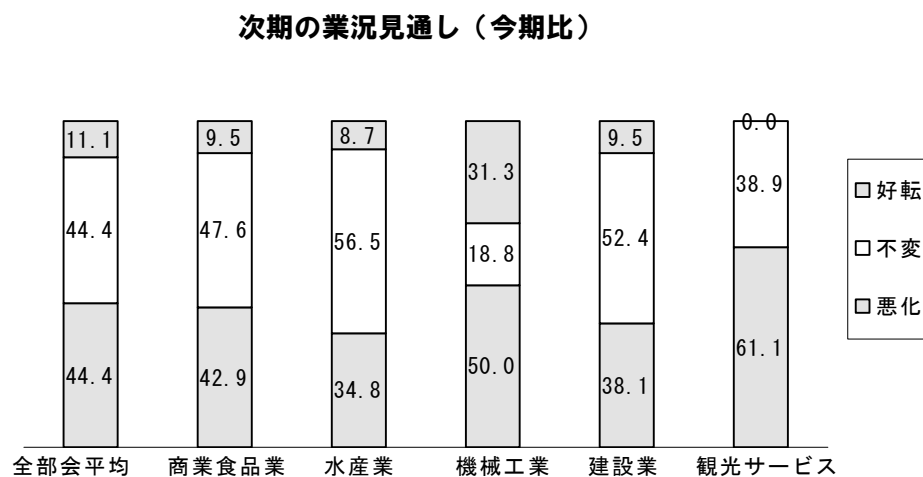
今期の店舗・社屋・工場等への設備投資実施状況について



3. 来期の見通し

(1) 来期の業況

【今期比】（平成19年7月～9月期の水準と比較した来期の業況見通し）

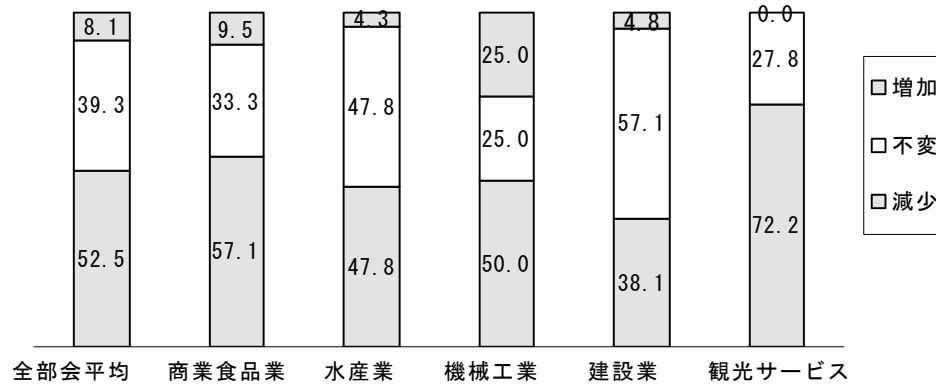


全業種平均DI値 Δ 33.3〔今期の業況（前年同期比 Δ 34.7）より1.4ポイント悪化の見通し〕

(2) 来期の売上高・生産高

【今期比】（平成19年7月～9月期の水準と比較した来期の売上高・生産高見通し）

次期の売上高・生産高見通し（今期比）

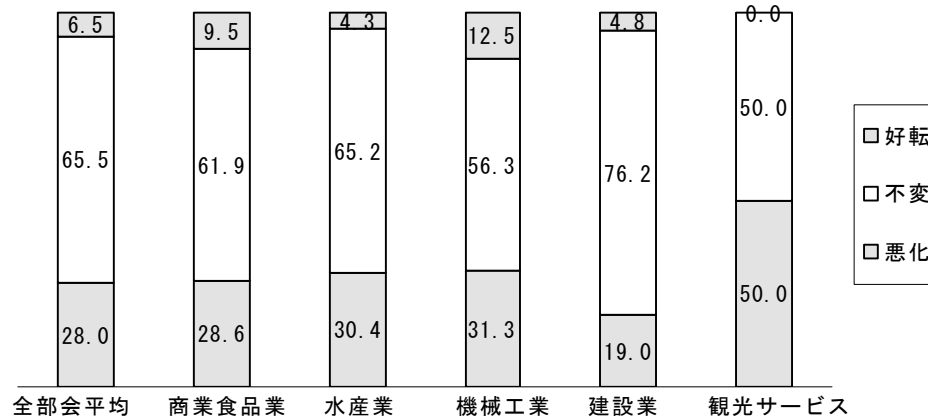


全業種平均DI値 $\Delta 44.4$ [今期の売上高・生産高（前年同期比 $\Delta 36.6$ ）より7.8ポイント悪化の見通し]

(3) 来期の資金繰り見通し

【今期比】（平成19年7月～9月期の水準と比較した来期の資金繰り見通し）

次期の資金繰り見通し（今期比）



全業種平均DI値 $\Delta 21.5$ [今期の資金繰り（前年同期比 $\Delta 22.5$ ）より1.0ポイント改善の見通し]

Ⅲ. 各 指 標

| | | 全 体 | 商 業 食 品 業 | 水 産 業 | 機 械 工 業 | 建 設 業 | 観 光 カ ー ビ 入 ・ 諸 業 |
|---------------------|-------|-------|--------------|-------|---------|-------|----------------------|
| 業況判断 D・I | 今期実績 | △34.7 | △31.8 | △4.3 | △52.9 | △38.1 | △55.6 |
| | 来期見通し | △33.3 | △33.3 | △26.1 | △18.8 | △28.6 | △61.1 |
| 売上 D・I | 今期実績 | △36.6 | △40.9 | △8.7 | △58.8 | △33.3 | △50.0 |
| | 来期見通し | △44.4 | △47.6 | △43.5 | △25.0 | △33.3 | △72.2 |
| 在庫 D・I | 今期実績 | +4.4 | +4.5 | +4.3 | — | — | — |
| | 来期見通し | — | — | — | — | — | — |
| 採算 D・I | 今期実績 | △33.7 | △31.8 | △8.7 | △58.8 | △33.3 | △44.4 |
| | 来期見通し | — | — | — | — | — | — |
| 資金繰り D・I | 今期実績 | △22.5 | △22.7 | △13.0 | △25.0 | △28.6 | △25.0 |
| | 来期見通し | △21.5 | △19.0 | △26.1 | △18.8 | △14.3 | △50.0 |
| 金融機関 貸出姿勢 D・I | 今期実績 | △3.3 | △5.0 | +4.3 | +6.7 | △14.3 | △7.7 |
| | 来期見通し | — | — | — | — | — | — |
| 借入金 金利水準 D・I | 今期実績 | +26.4 | +20.0 | +52.2 | +21.4 | +14.3 | +15.4 |
| | 来期見通し | — | — | — | — | — | — |

※借入金金利水準D・I値のプラス値については、借入金利が上昇したと感じた回答が多い時にプラス値で表示されます。